

令和5年度事業実施報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

令和5年度の協会運営は、令和5年の定時社員総会で承認された事業計画と予算に則り、公益社団法人として、代表理事会長・理事副会長のもと理事会の執行機関として8つの「委員会」を設置し、各「委員会」ごとに責任を持って事業を推進し、全体を調整する機関として「総括運営委員会」を置き、当協会の理念に基づき、多岐にわたる協会の事業を具体的に効率よく実施し、予算内の収支で行いました。5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけがインフルエンザ並みの「5類」に移行したこともあり、各事業ともイベント開催は通常ペースに戻りました。

A. 公益事業

1. 日本写真協会賞の令和5年度表彰及び令和6年度選考 【表彰委員会】

○令和5年度表彰式、展示会の実施

・令和5年度日本写真協会賞は、我が国の写真文化活動に顕著な功績が認められた内外の個人・団体をはじめ、前年に優れた作品・評論を発表された方々の中から令和5年2月15日に各賞の受賞者を選出し、3月22日理事会で決定し、3月31日にカメラ記者クラブ・関係諸機関・一般紙報道機関や公共機関にニュースリリースを配布して、対外発表しました。その後、6月1日に表彰式ならびに受賞者祝賀パーティーを九段会館(東京)で行いました。受賞者祝賀パーティーは4年ぶりの開催となりました。また5月26日～6月1日に予定した受賞作品展は、富士フィルムフォトサロン東京(六本木)で計画通り開催しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

楠本亜紀(評論家・キュレーター)、白山真理(写真史家・一般財団法人カメラ博物館調査研究部長)、菅沼比呂志(インディペンデントキュレーター・東京工芸大学芸術学部写真学科教授)、瀬戸正人(写真家)、広川泰士(写真家)

○令和5年度受賞者(敬称略)

☆作家賞： 笠井爾史
☆新人賞： 中井菜央
☆国際賞： 石渡真弥、KYOTOGRAPHY 京都国際写真祭
☆功労賞： 百々俊二、写真新世紀
☆学芸賞： 大山 顕、雑誌『写真』編集部(代表：村上仁一編集長)

○令和6年度受賞者の選考

・令和6年度日本写真協会賞の選考は、恣意的な選考に陥らないよう、会員及びノミネーターから昨年末までに候補者の資料を広く収集し、令和6年2月14日、5名の選考委員による「選考会」を開催し、作家賞1名、新人賞2名、国際賞1名、功労賞2名、学芸賞1名の受賞者を内定致しました。

これを令和6年3月19日に理事会で承認決定し、3月29日に対外発表しました。

○選考委員 (敬称略、五十音順)

板見浩史(フォトエディター)、今森光彦(写真家)、上田義彦(写真家)、楠本亜紀(評論家・キュレーター)、瀬戸正人(写真家)

○令和6年受賞者及び受賞理由(敬称略、五十音順)

☆作家賞： 公文健太郎

公文健太郎氏は、2012年ネパールを題材にした『ゴマの洋品店』で日本写真協会賞新人賞を受賞以降

の活躍が目覚ましい。主な写真集は『耕す人』『地が紡ぐ』『暦川』『光の地形』。2022年には香川県の離島「手島」の過疎を題材に『NEMURUSHIMA-THE SLEEPING ISLAND(眠る島)』を上梓。この間の写真展は18回に及び、エネルギーな作品発表活動への評価も高い。その顕著な活躍と今後への期待も込めて。

☆新人賞： 遠藤励

写真展・写真集『MIAGGOORTOQ』（ミアゴート）は、極北に生きる自然と人々の記録だ。写真のひとつひとつにメッセージが込められ、時間の重厚さを感じられる。表現者として生態系の輪の中に参加し、人類が抱える地球温暖化という大きなテーマに対して、極限の自然で逞しく生きる人々に向ける眼差しを通して問題を投げかけるその作品に対して。

☆新人賞： 夢無子

夢無子氏の写真を見ていると、どんな異国の地にいようと彼女の日常が写っていることに気づき、そのことに驚く。異国の人々が、一瞬のうちに夢無子氏と溶け合い、彼らに積年の友であるかのような錯覚を起こさせ、その日常を惜しみなく、見せる。そして夢無子氏は息をするように、水を飲むように、彼らを無邪気に無防備に撮影するのだろう。自由奔放なその作品に対して。

☆国際賞： 沈昭良

沈昭良氏は、長きに渡り台湾と日本の写真界の大きな橋渡しをしてきた。日本の写真を台湾で展示紹介するだけでなく、近年は中国、香港、カンボジアへと活動を広げている。日々、大学で若い学生に接しながら、また写真家として常にアジア近隣諸国との写真を通じた文化交流に視野を置き、各国の作家一人ひとりに語りかけ、キュレーションする沈氏の写真家を越えた活動に対して。

☆功労賞： 川田喜久治

最初の写真集『地図 The Map』（1965年）から、Instagramに日々アップロードし続けている膨大な写真群に至るまで、川田喜久治氏は、現実の中に折り畳まれた意味の複数性を、時代を超え、メディアを変え、加工し、掘り出し、みつけだそうとする。写真を通じた、その行為に終わりはないことを指し示す。時代に応じた現実との関わりを探り、物象と抽象が交差する写真の新たな領土を開拓する「地図」を描き続けた功績に対して。

☆功労賞： 東京工芸大学

東京工芸大学は、小西寫真専門学校を前身として創立されてから2023年で100周年を迎えた。東京工芸大学一世紀の歴史は、そのまま日本の写真産業と写真文化の歴史100年とも言え、同校がこれまで輩出した歴代の卒業生が日本の写真界・産業界に与えた人的功績は計り知れない。その多大な功績に対して。

☆学芸賞： 寺崎英子写真集刊行委員会(代表：小岩勉)

写真集『細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム』は、かつて宮城県栗原市細倉に暮らした無名の”写真家”寺崎英子氏が脊椎カリエスという病を抱えながら13年間撮影した人々の暮らしと風景の記録である。市井の女性が写真で遺した一時代の記録を発掘、丹念に収集編纂、優れた写真集に結晶させ、広く世に知らしめた功績に対して。

2. 「東京写真月間2023」の開催と「大阪写真月間2023」への協賛 【写真月間委員会】

- ・事業名：「東京写真月間2023」(The Month of Photography, Tokyo2023)
- ・主催：「東京写真月間2023」実行委員会／公益社団法人日本写真協会
- ・共催：東京都写真美術館
- ・後援：外務省、環境省、ベトナム社会主義共和国大使館
- ・事業開催期間：2023年5月23日～11月23日

・概要:

「東京写真月間 2023」は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されて漸く日常を取り戻しつつある中、SDGs を意識した国内企画展「環境」と日本・ベトナム外交関係樹立 50 周年事業として国際展「アジアの写真家たちベトナム 2023 Since2006」を開催しました。また、「写真の日」記念写真展 2023 は、11 月 23 日に東川町での巡回展を終え、すべての事業が終了しました。

なお、新宿ヒルトピアアートスクエアと福島市写真美術館では「写真の日」記念写真展とピックアップした国際展を展示し、東川町文化ギャラリーでは更に国内企画展を加えて展示しました。

また、4 年振りに通常通りの形式で写真の日の 6 月 1 日に、日本写真協会賞表彰式及び「東京写真月間 2023」オープニングセレモニーを実施することができました。

1) 国内企画展

国内企画展は、昨年に引き続き「写真の力で考えよう 未来に希望を」をキャッチフレーズに、SDGs(2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標)を意識した写真展を開催しました。昨年は、「地域との共生」をテーマに初めての試みとして会員を対象とした公募形式で作品を募集しました。お陰様でこの企画は大変好評を頂きましたので、今年は第 2 弾としてテーマを「環境」として、環境問題・環境保全などについての様々な取り組みを表現する作品を会員から募りました。

今年も全国から意欲的な作品を多数ご応募頂きましたが、その中から実行委員会と関係者による選考の結果 7 名の出展者が選出され、6 会場で写真展が開催されました。何れも多面的な切り口で「環境」についての取り組みを表現した写真展でした。

辻博希「カムイの住む森」

北海道在住の作者が選んだ撮影場所は、日高山脈が太平洋に落ち込む辺りにある深く広大な森。一度人間の手が入ったものの厳しい自然環境が幸いし、長い年月をかけて徐々に再生を果たし、本来あるべき生態系を留めたアイヌモシリであった頃の森に戻っています。大地の万物をカムイ(神)と崇め、自然界と調和してきたアイヌの精神性に敬意を払いながら紡いだ作品です。

会場：ニコンプラザ東京 THE GALLERY 5 月 23 日～6 月 5 日

秦 達夫「Traces of Shirakami」

この写真展は、秋田の子ども達に身近にある白神山地を通して SDGs を考えてほしいと願って作成された小冊子『写真で知ろう！SDGs「森ってどうして大切なのか?」』をベースに構成されています。全ての子ども達に儂くも美しい自然の代表的な存在である白神山地を知ってもらい、故郷(日本の自然)を大切に作る気持を持ってもらいたいとの作者の思いを込めた作品です。

会場：エプソンスクエア丸の内 エプサイトギャラリー 5 月 26 日～6 月 7 日

松下幸司「水の星」

作者のライフワークとしてきた「虹の宇宙」の中から「水の星」として纏められています。被写体のシャボン玉を見つめていると銀河系の星のように見え、宇宙を感じるようです。様々な問題を抱えた地球の環境により壊れてしまうシャボン玉を通して、この美しい地球を気候変動により壊してしまわないように、写真の表現で「触発」に繋がることを願った作品です。

会場：キヤノンオープンギャラリー1 6 月 1 日～7 月 4 日

長 洋弘「We are also SDGs (僕らを見つけて)」

江戸時代300年は理想的なりサイクル社会だった。使い捨てられた僕ら(物)はまだ持続可能だった。僕ら(物)が生きていたころは地球の未来が見えていたと作者は語る。だから今、捨てられた僕ら(物)を見つめてほしい。迷走している現代社会にこそ今を見つめること！それが地球を救う！We are also SDGs というメッセージが込められた作品です。

会場：OM SYSTEM GALLERY 6月1日～12日

古屋光雄「いのち輝く楽園ー乙女高原の森」

作者の生まれ故郷山梨市牧丘町にある標高1,700メートルの亜高山帯草原である乙女高原を撮影した作品。広大な森に囲まれ、人の手により守られてきた高原は動植物たちの命輝く感動的な姿に巡り合うことが出来る。五感を澄ませて佇めばそこは楽園。作者が四季折々に足繁く通り作品として纏めたもの。

会場：OM SYSTEM GALLERY 6月1日～12日

黒部ゆみ「琉球より、海の声」

沖縄の海に一目ぼれして移住した作者。日々海と向き合う中で、サンゴ礁の環境に大きな問題があることに気づきました。まず、海岸や海の中に放置されたごみの問題。次に地球温暖化の影響で豪雨が発生し、赤土が海に流入している問題。そして海水温の上昇によるサンゴの白化問題。沖縄の美しい海を未来の子ども達にも繋げていきたいとの願いから海の声を作品にしたものです。

会場：LUMIX BASE TOKYO 6月9日～29日

高木健治あいおいやま「相生山緑地 オアシスの森」

名古屋市東方の丘陵地帯は、戦後宅地開発が進み古の自然環境は失われたが、相生山の自然環境の保全は今も維持されている。初夏には小池に睡蓮が咲き、姫ボタルの乱舞が始まる。当該地区に居住する人々に生活の不便さを与えつつ、戦争の傷跡を山中に残しながら昔からの環境を維持し続ける相生山の四季を捉えた作品です。

会場：ピクトリコショップ&ギャラリー 6月20日～7月1日

2) 国際展「アジアの写真家たちベトナム2023 Since2006」展

今回は、2006年度に開催したベトナム社会主義共和国が、2023年9月21日に日本・ベトナム外交関係樹立50周年の節目を迎えたことを記念し、また前回開催してから17年が経過した同国の飛躍的に発展した経済と文化の変化を表現した出展作家23名による写真展を、ソニーイメージングギャラリー、プレイスM、ニコンプラザ東京 THE GALLERY、LUMIX BASE TOKYO、ヒルトピアアートスクエアの5会場にて開催しました。又、今回は4年振りに出展作家数名を6月1日「写真の日」記念セレモニーに招聘しました。セレモニーでは、久々に海外の出展作家と日本の関係者との交歓・談笑する光景が見られ、国際交流として意義深いものとなりました。

・会場（*国内企画展併催）と日程及び出展作家名

■ニコンプラザ東京 THE GALLERY（*） 5月23日～6月5日

DUONG QUOC DINH

■ソニーイメージングギャラリー 5月26日～6月1日

NGUYEN NGOC THIEN、LY HOANG LONG、NGUYEN NGOC HOA、NGUYEN HAI DONG、TRAN VIET VAN

■Place M 6月5日～6月11日

NGUYEN DOAN QUANG、HOANG THE NHIEM、TRUONG HOAI VU、HUYNH PHAM ANH DUNG、TRAN CAO BAO LONG

■LUMIX BASE TOKYO（*） 6月3日～6月29日
NGO QUANG PHUC

■ヒルトピアアートスクエアギャラリーC室 6月29日～7月4日
NGUYEN BA HAN、DZUNG NGUYEN、NGUYEN BA MINH HIEN、
HAI AU CLUB（女性グループ10名）

3) 第19回公募展 「写真の日」記念写真展・2023

「東京写真月間2023」の事業の一つとして、「感動発信！感動共有！」をキャッチフレーズに掲げ、今年も公募による「写真の日」記念写真展・2023を開催しました。作品のテーマは、「自由」。風景、花、旅、家族、動物、行事、スポーツ、スナップなど、全国813人の方々から、多彩な分野の作品2,019点のご応募を頂きました。

選考委員：小林紀晴、岡本洋子

展示内容：環境大臣賞1点、外務大臣賞1点 優秀賞10点、奨励賞10点、
協賛会社賞45点、入選63点 計130点

会場：新宿ヒルトピアアートスクエアギャラリーAB室

会期：2023年6月29日～7月4日

巡回展：小諸市立小諸高原美術館市民展示室 2023年8月8日～20日

福島市写真美術館 2023年9月16日～24日

9月16日 写真教室 講師：岡本洋子

9月17日 ギャラリートーク 講師：岡本洋子

「写真の町」東川町文化ギャラリー 2023年11月7日～23日

11月11日 写真の著作権、肖像権セミナー 講師：棚井文雄

4) 2023年日本写真協会賞受賞作品展

会場：富士フィルムフォトサロン 東京 5月26日～6月1日

展示作品 作家賞：笠井爾示 新人賞：中井菜央 功労賞：百々俊二

紹介 国際賞：石渡真弥、KYOTOGRAPHIE 功労賞：写真新世紀 学芸賞：大山顕、雑誌『写真』編集部

5) その他

●「日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間オープニングセレモニー」

会場：九段会館テラス 6月1日

会場を新たにしてコロナ禍の緩和を受け、通常通り開催しました。4年振りの通常開催で会員、賛助会員、関係者など多くにの方が参加して頂き、協会ならではの交流の場となり賑わいました。

●共催事業

第4回「親子の写真まつり」（写真家ブルースオズボーン氏による主催「親子の日普及推進委員会」）に初回より後援し、今回は報道写真家故一ノ瀬泰造氏の作品を紹介しました。

会場：日本外国特派員協会内 7月1日～8月4日

第8回 HIGASHIKAWA 高校生国際交流写真フェスティバル

東川町 8月22日～26日

今回は久々にリアル開催となり、日本も含め20ヶ国参加。

【主催】高校生国際交流写真フェスティバル実行委員会

【後援】外務省 / 一般財団法人自治体国際化協会 / 駐札幌大韓民国総領事館 / タイ王国大使館 / 駐日ウズ

ベキスタン共和国大使館 / 在日オーストラリア大使館 / 駐日ラトビア共和国大使館 / 在京シンガポール大使館 / 在日ミャンマー連邦共和国大使館 / 駐日ラオス大使館 / 駐日コロンビア共和国大使館 / 台北駐日経済文化代表処札幌分処 / 北海道 / 北海道教育委員会 / 公益社団法人全国高等学校文化連盟 / 高等学校文化連盟全国写真専門部 / 北海道高等学校文化連盟 / キヤノンマーケティングジャパン株式会社 / ウェスタンデジタル合同会社 / EIZO 株式会社

【協力】「東京写真月間」実行委員会 / HJK 株式会社

● 図録

「東京写真月間 2023」を総括した図録を作成して、ご協力頂いた関係機関に配布するとともに、関係各国大使館や図書館、美術館、ギャラリー、行政府等の公共機関にも無料提供しました。また、「写真の日」記念写真展入賞者等購入を希望する写真愛好家には、一冊 2,000 円で頒布しました。

*1000 人の写真展「わたしのこの一枚」は中止としました。

○ 「大阪写真月間 2023」を共催 (500,000 円を協賛)

大阪の写真文化向上を目指す「大阪写真月間」は今年で 22 年目を迎え、下記内容の写真展等を実施しました。

- 1) 写真家 150 人の一坪展 5 月 26 日～7 月 1 日 3 会場 参加 114 名
α プラザ(大阪) ギャラリースペース、富士フィルムフォトサロン 大阪、ニコンプラザ大阪 THE GALLERY
- 2) 大阪写真月間ハイスクールフォトアワード 2023
7 月 1 日～21 日 α プラザ(大阪) ギャラリースペース 参加 51 校 300 作品
日本写真協会会長賞を設定：和歌山県立神島高等学校 川崎康斗氏に授与
- 3) 写真展「私のこの一枚」 6 月 7 日～12 日 イロリ村[89]画廊 263 作品
- 4) 小学生のための写真講座「親子で挑戦! デジタルピンホール写真」
6 月 17 日 ニコンプラザ大阪セミナールーム 親子 6 組 12 名
- 5) 記念講演会「写真家 浅田政志氏」
6 月 25 日 中崎町ホール 参加 160 名

3. 国際交流活動 【国際交流委員会】・【写真月間委員会】

- (1) 国際展「アジアの写真家たちベトナム Since2006 2023」

(※内容は東京写真月間 2023 国際展の項目に掲載)

- (2) 「アジアの写真家たちモンゴル」特別展

2022 年に日本とモンゴル外交関係樹立 50 周年を記念し、今回は、愛媛県美術館にて 11 月 8 日～12 日に展示致しました。2016 年に東京写真月間「アジアの写真家たちモンゴル」展を、翌年 2017 年に外交関係樹立 45 周年を記念してモンゴル国首都ウランバートルに日本を紹介する「日本」展を開催、50 周年ではモンゴルにて記念イベントがあり、当協会も招聘があり 2 名が参加し交流をするなどの経緯がありました。今回は、愛媛県の当協会の会員からの要請もあり開催に至りました。2016 年の「アジアの写真家たちモンゴル」展からと、モンゴル写真家協会の協力の下、新作を加え 50 点を展示しました。初日のオープニングセレモニーでは地元のケーブル TV の取材があるなど、関心の高い行事となりました。

- (3) 「#Save Myanmar 平和への願い」特別企画展

「第 49 回美術の祭典 東京展」(10 月 7 日～14 日東京都美術館開催) にミャンマーの写真家と国内写真家とのコラボ展示しました。終わりの見えない日々が続くミャンマーの仲間たちの平和の願いを込めて「アジアの写真家たち 2014 ミャンマー」にて展示した写真家 5 名の作品を中心に構成した作品を展示し、好評を博しました。「東京写真月間 2023」運営委員会では、ミャンマー写真家の作品をポストカードにし、チャリ

ティーとして販売。売上金約 6 万円を関係ルート通して同国の写真関連に役立てて頂くよう寄付しました。
 出展写真家 Zaw Min(PSJ 会員)、Nyan Lin(PSJ 会員)、亀山仁(PSJ 会員)、Kyaw Kyaw Winn、
 Kyaw Zaw Lay、Thadar Soe 他

(4) 日本写真協会賞新人賞受賞作品を海外で紹介

ウクライナなど世界に緊張状況が続いている中で、海外からのオファーも無い状況が続いています。

4. 写真・映像教育の推進 【写真・映像教育推進委員会】

平成 18 年 3 月にスタートした写真・映像教育の推進事業は、子供達に写真の楽しさ、面白さなど感動と親しみを体験してもらうことを目的に、「ピンホール写真体験教室」ならびに「デジタル写真体験教室」を実施しています。令和 5 年度は、新型コロナウイルスの影響も一段落し、各学校・教師等からの実施要望に応じて実施しました。

令和 5 年度実施状況

令和 5 年度トータルとしては、10 ヶ所、307 名が参加しました。

「ピンホール写真体験教室」：7 ヶ所 参加人数 250 名

「デジタル写真体験教室」： 3 ヶ所 参加人数 57 名

■令和 5 年度 写真体験教室実施状況

	会場・主催者	内容	開催日	対象	参加人数
1	聖光学院中学校高等学校	ピンホール	7/11	中 1～高 1	47
2	多摩六都科学館	デジタル	7/15	小学生	23
3	秦野市立本町公民館	ピンホール	7/16	小学生	10
4	酒田市土門拳記念館	ピンホール	7/23	小・中学生の親子	73
5	名古屋市科学館	ピンホール	729-30	小学生の親子	46
6	大田区立出雲小学校	デジタル	8/2	小学生	23
7	神奈川県立大船フラワーセンター	ピンホール	8/5	小学生	36
8	大田区立出雲小学校	ピンホール	10/21	小学生	19
9	海老名市立東柏ヶ谷小学校	ピンホール	11/9	小 6	19
10	中野区江古田区民活動センター	デジタル	1/27	小学生～大人	11

1) ピンホール写真体験教室

写真の歴史、ものの映るしくみ等を説明し、各自ピンホールカメラを組み立て、光の性質を理解しながら銀塩方式の写真体験をしてもらいました。東京、神奈川など首都圏の教育支援事業としてスタートしましたが、写真・映像教育への関心は着実に広がりを見せています。首都圏以外では、酒田市土門拳記念館および名古屋市科学館で教室を実施しました。

2) デジタル写体験教室

写真の原理は勿論ですが、物事をよく観察することの大切さや、写真の持つ多様な力の中から自分の気持を表す自己表現力・コミュニケーション力を如何に引き出すかに重点を置いて実施しました。併せて、断りもなく他人の顔を写さない、花壇等に勝手に踏み込まない等の撮影マナーや、著作権・肖像権等の法的権利についてもその重要性を学んでもらいました。

5. 年報・図録等の発行 【出版広報委員会】・【写真月間委員会】

1) 年報

「不特定多数の利益の増進に寄与する公益事業」として認定された「日本写真年報」は、2013 年版より「日本写真年鑑」と題し、従来の写真業界の年報としての機能に合わせ、年間を通じた写真界の幅広い情報を掲載してまいりましたが、2021 年版からは時代に即した内容精査を行い、従来の写真業界の年報としての機能に重点

化し「日本写真年報」として新たに発行することとしました。2023年版もこの方針の下、12月に発行・配布を行いました。

2) 東京写真月間図録

「東京写真月間」の開催にあたって、事業内容を集約した図録を製作・頒布しました。

B. 共益事業

1. 会報の発行【出版広報委員会】

令和5年度は、事業計画通り年2回、10月(秋・485号)・3月(春・486号)を発行し、各時点における協会及び会員の活動や今後の計画、写真文化情報などを紹介しました。また、6月には東京写真月間2023図録を全会員・賛助団体に郵送しました。

・主要掲載記事

485号：「PSJ70周年記念事業」「2023年日本写真協会賞表彰式」「東京写真月間2023国内企画展」他

486号：「写真の町40年 わたしたちは、これからも、1985-2024」「土門拳記念館40周年と土門の言葉」他

C. 法人運営事業

1. 公的機関が主催する写真コンテスト・イベント等への協力【総務委員会】・【写真月間委員会】

公益社団法人移行後、公的機関からの写真コンテスト・イベント等の相談及び協力依頼に対応しています。

1) 第39回「写真の町・東川町フォトフェスタ」へ協力

北海道東川町主催の第39回「写真の町・東川町フォトフェスティバル」(7月29日～8月28日)を後援しました。

2) 第3回「無電柱化の日」フォトコンテストへ協力

東京都主催の「無電柱化の日」フォトコンテスト(応募:7月1日～9月30日、表彰式:11月10日)に後援し、審査員を紹介(当協会会員 松井みさき氏、ハービー・山口氏)するとともに、フォトコンテスト告知に協力しました。

3) 総務省より、統計局発行書籍の掲載写真へ協力

総務省統計局発行「世界の統計2024」の表紙に、PSJ会員・大日向達也氏の写真(チリ／ラパ・ヌイ国立公園)が採用されました。

2. 社員総会・理事会・総括運営委員会の開催【総務委員会】

4月25日の第1回通常理事会において、令和4年度事業報告、貸借対照表および損益計算書の承認、定時社員総会開催内容を決定しました。6月16日に令和5年度定時社員総会を開催、議決権者1,354名、議決権行使800名(出席20名を含む)で令和4年度事業報告、令和5年度事業計画・予算を報告、令和4年度決算、任期満了に伴う役員改選、役員報酬総額を決定。総会終了後、第2回通常理事会を開催しました。

令和6年3月19日に第3回通常理事会を開催。令和6年度事業計画・予算を承認しました。

また、5月16日、7月18日、9月19日、11月21日、1月23日、3月12日の計6回、事業報告及び財務状況を代表理事会長、理事副会長に各委員会委員長が報告する総括運営委員会を開催しました。

3. コンプライアンス【コンプライアンス委員会】【総務委員会】

令和6年3月8日 コンプライアンス委員会を開催(尾畑業務執行理事、松本理事副会長、庄業務執行理事)し、令和5年度の公益事業に関し、適切な運営ができたかを点検しました。また、令和4年4月1日から義務化された「改正労働施策総合推進法」に基づく「パワーハラスメント防止措置」を受け、運用開始したコンプライアンス・ヘルプラインの状況につき確認を行いました。

4. 永年会員表彰制度の創設 【総務委員会】

当協会に長く在籍頂いている個人正会員に対する新たな表彰制度（永年会員表彰）を創設しました。協会の継続在籍年数10年・20年・30年の区切りで、対象者に記念品（ピンバッジ）を贈呈するもので、令和5年度は初年度ということもあり、継続在籍年数10年535名・20年180名・30年57名の方を表彰しました。特に30年会員には、「写真の日」集いの一環として、九段会館において表彰式を実施し、感謝状とともに記念品を贈呈しました。

5. 日本写真協会創立70周年記念事業の実施 【総務委員会】

当協会は1952(昭和27)年に設立され、2022年12月で創立70周年を迎えました。これを記念した創立70周年記念事業として、①日本写真協会70周年記念誌の発行・配布、②個人会員向けPSJロゴ型押し革製ネームタグの製作・配布、③団体賛助会員向け「東川町製木工置時計」の製作・配布を実施しました。

6. 協会ホームページの拡充 【総務委員会】

2024年1月から協会ホームページに、「会員からのお知らせ」として会員が主催する写真展や出版する写真集の情報を広く一般に告知するコーナーと、「私のこの一枚」として会員が自身の作品を発表できるコーナーを設けました。これにより、会員の活動を広く一般に紹介する支援を行っていきます。

7. 展覧会等の後援 【総務委員会】

当協会は公的機関や学校教育機関、マスコミ、写真関係団体等が主催し、内容が文化、教育、国際交流に寄与する写真展等に対して後援・協賛・協力を行っていますが、令和5年度は以下の催事をバックアップしました。

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
1	東京都写真美術館、朝日新聞社	田沼武能「人間讃歌」写真展 【協力】	2023年6月2日～7月30日 東京都写真美術館
2	フォトシティさがみはら実行委員会	相模原市総合写真祭フォトシティさがみはら2023	2023年4月1日～2024年3月31日 相模原市民ギャラリー他
3	フォトグループいぶき	フォトグループいぶき写真展	2023年5月5日～11日 富士フィルムフォトサロン
4	(株)プロメディア、写真感光材料工業会、日本フォトイメージング協会、(一社)日本写真映像用品工業会	PHOTONEXT 2023【協力】	2023年6月6日(火)～6月7日(水) パシフィコ横浜・Bホール
5	日本写真学会、写真感光材料工業会	PHOTONEXT 技術アカデミー【協力】	2023年6月6日(火) パシフィコ横浜
6	阿智村	第26回熊谷元一写真賞コンクール	2023年11月発表 阿智村
7	日本写真家連盟	第36回『四季の彩り』展および第12回「公募展」	2024年2月12日(月)～18日(日) 東京都美術館
8	日本山岳写真協会	2023年日本山岳写真協会展	9月9日～9月17日 東京都美術館他巡回
9	NHK 学園	第6回NHK学園「四季の写真展」 【後援・会長賞】	9月6日～11日 横浜みなとみらいギャラリー
10	公益社団法人日本広告写真家協会	第14回「全国学校図工・美術写真公募展」	7月10日～11月10日
11	(一社)東京都民間保育園協会	第6回TOKYO保育フォトコンテスト「TOKYO保育フォト展」	募集:6月1日～7月31日, 展示:11月17日～18日 東京教育専門学校
12	東川町写真の町実行委員会	第39回東川町国際写真フェスティバル(フォトフェスタ2023) 【後援・顧問】	7月25日～8月28日 東川町町内一円

	申請者（≠主催者）	写真展名	会期・場所
13	日本光画会	第58回日本光画会写真展 【後援・会長賞】	12月20日～令和6年4月21日 尼崎市文化センター他巡回
14	相模原市	岩橋英遠・岩橋崇至 ふたりのまなざし展	8月5日～26日相模原市民ギャラリー
15	福島市写真美術館	いのち-生かし生きる写真展	7月15日～8月20日
16	東京都	第3回「無電柱化の日」フォトコンテスト	7月5日～10月1日 表彰式11月10日
17	(公財) さかた文化財団土門拳記念館	夏休み「ピンホールカメラ体験教室」【協力】	7月23日酒田市総合文化センター
18	福島市写真美術館、福島市	いのち-生かし生きる写真展 【協力】	7月15日～8月20日福島市写真美術館
19	土門拳記念館	第18回「わたしのこの一枚」写真展【協力】	11月22日～12月3日
20	東京画	写真誕生200周年記念企画「WANDER-Mt. FUJI」	2024年6月1日～7月21日東京都写真美術館
21	にっぽん一大使たちの視線写真展実行委員会	にっぽん一大使たちの視線2023写真展	10月5日～9日六本木ヒルズ、神戸、横浜、東川町他～、2024年9月まで
22	一般社団法人 日本現代写真家協会	JMPA第4回インターネットフォトコンテスト【後援・会長賞】	募集：10/25～12/5、発表：R6年2月20日
23	一般社団法人カメラ映像機器工業会	CP+（シーピープラス）2024【協力】	2024年2月22日～25日（オンラインも同じ）、パシフィコ横浜
24	仙台市	仙台市・アカプルコ市姉妹都市提携50周年記念写真展	10月15日～29日 au style SENDAI
25	(一社) 日本写真文化協会	第70回全国展フォトコンテスト	2024年5月28日～6月4日（東京都美術館）、9月（富士フィルムフォトサロン大阪）、12月19日～25日（ポर्टレートギャラリー）
26	学校法人NHK学園	第34回NHK学園生涯学習写真展	2月16日～2月22日富士フィルムフォトサロン東京
27	写真プロジェクト“この人”運営事務局	篠原誠二写真展「“この人” Esta Persona」	イラブアト市4月27日～5月27日、メキシコシティ6月21日～8月17日
28	(一社) カメラ映像機器工業会	CP+（シーピープラス）2024【協力】	2024年2月22日～25日 パシフィコ横浜
29	日本フォトイメージング協会、(一社) 日本写真映像用品工業会	「PHOTONEXT2024」【協力】	2024年6月11日～12日パシフィコ横浜・Bホール

附属明細書

該当事項がないため、記載を省略しております。

以上